

大声大会（ブース運営）

運営マニュアル

① 目的

参加者が「面・小手・胴」などの掛け声を大きな声で発声し、楽しみながら剣道の基本所作に触れる体験企画です。勝敗は審判旗による相対判定とし、競技性よりも安全・一体感を優先します。

② 体制（必要人数）

- 判定役：1名（審判旗で勝敗を宣告）
- 順番整理：1名（参加者誘導、並び、次の人の準備）
- ※可能であれば補助：1名（写真撮影、記録、声掛け等）

③ 備品

- 審判旗：1セット（赤・白）
- 目印：ビニールテープ（赤・白 各1）またはカラーコーン（計4つ）
- ホワイトボード：1枚（お題掲示）
- （推奨）ストップウォッチ：1個（進行のテンポ管理）
- （推奨）机：1台（受付・お題記入用）

④ 会場レイアウト

以下のように「赤」「白」の立ち位置を明確にし、観客・待機列と距離を確保します。



▲ 全体配置イメージ（赤・白の立ち位置と判定役）

★ 設置のポイント

- 赤・白の立ち位置は2～3m程度離し、正面に判定役を配置
- 待機列は発声位置の後方に作り、次の人がすぐ入れるよう動線を一本化
- 周囲に走り回る子どもが出やすいため、ライン（テープ）またはコーンで範囲を可視化

⑤ 進行（運営手順）

【事前準備（開始10分前）】

- 赤・白の立ち位置をテープまたはコーンで設置する
- ホワイトボードに「お題（面／小手／胴／自由枠）」を記載
- 判定役は審判旗を持ち、判定位置に立つ

【受付・ルール説明】

- 参加者を2名ずつ「赤」「白」に分ける
- 「大きい声＝勝ち。危ない動きは禁止」を最優先で周知
- 勝ち残り方式で進めることを伝える

【対戦（1試合）】

- 1 順番に「面→小手→胴→自由枠」で発声する
- 2 各お題ごとに判定役が大きいと思った方へ旗を上げて宣告
- 3 3本先取（または4本中の多い方）を勝者とし、次戦へ進む



▲ 判定役・参加者の配置（運用例）

【自由枠（お題の決め方）】

- ホワイトボードに自由枠のお題候補を複数提示
○ 例：好きな食べ物／好きな教科／将来なりたいもの 等
- 赤の人は「白の人に叫んでほしいお題」を選び、白も同様に相手のお題を選ぶ
- 相手に選ばれたお題を、それぞれが「自由枠」として叫ぶ

⑥ 判定基準（推奨）

判定は「声量」を主軸に、以下を補助的に考慮します。

- 声が途切れず、はっきり発声できている（明瞭性）
- 発声のタイミングが合っている（合図で同時に叫ぶ）
- 安全に配慮し、前へ飛び出さず所定位置で発声できている

※判定が割れる場合は「引き分け（やり直し）」を1回まで可とし、2回目は判定役が決め切ります。

⑦ 安全・運営上の注意

- 走り回り・押し合いが発生しやすいので、待機列の管理を最優先にする
- 小さなお子さんは興奮しやすいため、保護者に近い位置で待機してもらう
- 発声位置の前方に人が入らないよう、テープやコーンで立入禁止ラインを作る

⑧ 片付け

- テープ・コーンを回収し、床面に粘着跡が残っていないか確認
- ホワイトボード・旗・ストップウォッチ等を所定の場所へ返却
- 忘れ物がないか、机周り・待機列周辺を最終確認

⑨ 当日チェックリスト

✓ 確認項目

- ☐ 審判旗（赤・白）が揃っている
- ☐ 赤・白の立ち位置が明確（テープ／コーン）
- ☐ ホワイトボードにお題が書けている
- ☐ 待機列の導線が確保できている
- ☐ 安全ライン（立入禁止）が設置できている
- ☐ 順番整理（誘導）担当が配置できている

⑩ 自由枠（お題）例

参加者の年齢に合わせて、以下から選びやすいものを準備しておくことで運営が安定します。

お題候補リスト

- 好きな食べ物／嫌いな食べ物
- 好きな教科／得意なスポーツ
- 将来になりたいもの
- 今日一番楽しかったこと
- 推し（キャラクター・動物など）

⑪ トラブル対応（よくあるケース）

- スタッフが見本として1試合実施し、楽しさを見せてから募集 参加者が集まらない：
- 1試合を「面→小手→胴（3本先取）」に短縮し、自由枠は勝者戦のみ等に調整 行列が長い：
- 1回だけ「やり直し」を認め、それでも割れる場合は判定役が決め切る 判定に納得がいかない：
- 保護者と一緒に立ってもらい、掛け声は短く（面だけ等）に 小さなお子さんが恥ずかしがる：
- 順番整理役が待機列の前に立ち、ルール違反はその場で中断・注意 安全面の不安：

⑫ アナウンス例（30秒）

順番整理役が、次のように短く説明するとスムーズです。

「これから大声大会をします。赤と白に分かれて、順番に『面・小手・胴』を大きな声で言います。審判の先生が大きいと思った方に旗を上げます。走ったり押したりは危ないので禁止です。準備ができたなら、合図で一緒に叫びましょう！」